

「市民協働指針づくり」に向けた職員ヒアリング

【テーマ】 「市民協働のこれまでとこれから」
＜実施報告＞

1. 開催趣旨

- ・ 「新たな市民協働指針」の検討において、行政側の市民協働に対する心構え、留意点などを整理する。
- ・ 取りまとめる際の参考資料とするため、仙台市職員の市民協働についての意識や考え方などを聴き取る機会として「市民協働指針づくりに向けた職員ヒアリング」を行う。

2. 開催概要

- (1) 日時 平成25年12月18日(水) 18:30～20:30
- (2) 場所 仙台市役所本庁舎 8階ホール

3. 実施結果

- (1) 参加者 総参加者数 35名

・ 内訳 職員 25名、市民協働推進課5名、検討委員等(内、コーディネーター1名含む)5名

- (2) プログラム

- 開会・趣旨説明
- これまでの市民協働の取り組みの紹介
- グループ内自己紹介
- グループワーク 「市民協働のこれまでとこれから」

4. これまでの市民協働の取り組みの紹介

仙台市市民公益活動促進委員会の渡辺委員より、以下について説明がありました。

- ・ 市民活動促進、市民協働推進に関するこれまでの施策や取り組み
- ・ 市民協働事業提案制度の概要
- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会での検討経過

5. グループワーク 「市民協働のこれまでとこれから」

参加者+指針策定ワーキンググループメンバー等7名程度のグループを5つつくり、テーマに沿って自分の意見や感想などを色別の付箋紙に記入し、模造紙に貼りながら意見を交わすことで、市民協働に対する職員の経験や思いを共有しました。

【ワーク① 「協働でよかったこと、困ったこと」】

※以下、グループワークで作成した模造紙から抜粋

■よかったこと

○行動力・フットワーク

- ・ 団体の専門性の高さ、経験から生まれるフットワーク、行動力を持っている。
- ・ 一度合意形成ができれば、その後の対応が早い。
- ・ 地域（協働の相手方）における信頼が厚い方が多い。パワフルに周りを引っ張ってくれる。

○コミュニケーション

- ・ コミュニケーション能力が高く、個々人に合わせたきめ細かい対応が可能である。

- ・困ったとき、気軽に相談できるようになった。
- ・業務に役立つような情報をたくさんいただけるようになった。
- ・市民の方への相談対応の際、協力してもらえる。
- ・NPOの人は、じっくり寄り添うことで相手の本心を上手く聞き出してくれる。市民にとって、役所で窮状を訴えるのはハードルが高いようだ。

○視野・視点

- ・自分のまちに愛着を深めるきっかけを提供してくれる。
- ・行政の視点では見えない地域の問題が見えてくる。
- ・違う視点で考えられるので気づきが増える。

○知識・スキル

- ・イベントなどが楽しくできる。
- ・いろいろな団体の得意分野を生かすことができる。
- ・専門家のノウハウや話し合いに必要な考え方を教えてもらった。

○発想

- ・役所だけでは出てこない発想や気づきがあり、ソフトが充実しそう。
- ・新しい発想を取り入れた事業ができる。

○人

- ・ほかの業務でもつながりが生かせる。知り合う人が増えてつながっていった。
- ・市民にとって同じ立場の人が活動してくれる。
- ・公的な立場では関わりにくい場所、人等が関わってくれる。
- ・幅広い年齢層や職域の方の意見が聞ける。

■困ったこと

○協働

- ・無関心層へのアプローチが難しい。
- ・協働しても必ずしもみんなが仲良くなれるわけではない。

○職員の意識、体制

- ・職員のNPOへの理解を正しくしていかないと、事業が進みにくい。
- ・企画募集をしても、その事業内容に即した企画をもらえない。
- ・どの団体が、どんな活動をしているのかHPだけではわからない。
- ・同意が得られるまでの労力、調整事が増える。同意が得られない場合の対応が難しい。
- ・市役所が事務局になることが多く、事務量が増える。打ち合わせが、夜か土日になる。

○立場/役割

- ・立場の違いから、正しく相手のことが理解できていない。
- ・協働を進めている間に、目的がずれてきてしまうことがある→最終的にすれ違いになる。
- ・1団体だけの意見を聴くことが公平であるか判断できない。
- ・ほとんど何もないところからのスタートになるので、行政主導と思われぬように、どこまで踏み込んでよいのか、立ち位置に苦労する。
- ・行政側と団体側の（意思決定の手順を含めた）業務の流れの違いをどう埋めるか、役割分担をどうするかに苦心する。

○団体側の問題

- ・NPOによってマンパワーや資金等に差があるため、公平で均一なサービス提供に不安がある。
- ・行政側の仕組みを理解していない。（予算や手続き論、他局への根回しなど）
- ・自分の考え方や思いを話に来るが、役所へのお願い（資金、紹介してくれ、手伝ってく

れなど)になりがちである。

- 団体の代表者が変わると方針が変わる。組織として統一した見解が出ない。

【ワーク② 「市民協働を進めるとき、それぞれができること、できたらいいこと」】

■市ができること

○行政の仕組み

- 行政内部（課同士）の連携強化→より広い意味での協働ができる。協働事業は一つの課が単独でできるものばかりではない。
- 人事異動の戦略化（1～3年での人事異動では専門性・関係性が築けない）
- 協働を一市民として考える目線を持つ→市民協働を行政目線でしか考えられない職員が多いのでは。
- 職員のボランティア参加機会の付与。1日でもNPOの現場に行き、感想を語り合うだけでも得られるものがある。
- 担当が変わっても継続性があるようにする。（引き継ぎの仕方に工夫が必要）
※1年目は関係づくり、2年目は行動、3年目は発展…。
- 協働相手の自由な発想やアイデアをつぶさない。

○資金

- 試験的に運営開始したばかりの団体への補助金交付。
- 単年度事業ではなく、長い目で事業をみる。
- 施設開放、会議室の提供などの物質的な支援、組織づくりのサポート。

○情報・知識

- 行政情報（考え）の提供→無駄な取り組みにならないよう、してほしいことをしっかりと伝える。
- NPOのマンパワー不足を補える体力づくりのサポート（広報や情報共有のハブとなる）。
- 役所の仕組みは経験してみないとわからないから、NPO等が理解できるよう、行政の仕組みに関する基礎セミナーを開催する。
- 年に1回くらい、団体から活動報告をしてもらう。（市の活動も報告する）
- 協働相手の信用性を高めること。（仙台市の後援など）
- 法的チェックができる。専門を生かした役割分担・アドバイス。
- 協働して上手くいった事例をどんどん紹介して盛り上げる。きちんと評価して、やる気をアップ。

○つなぎ

- 団体間のつなぎ役としての役割を行政が果たす。
- 思い立ったとき、行きたいときに参加できる環境を整える。

■団体ができること

○姿勢・発想

- 行政にやってもらいたいことを主張するだけでなく、ギブ&テイクの姿勢で臨んでほしい。
- 団体ができることというより、すべき心構えとして、行政を利用しながらも頼りすぎない自立した態度が必要。
- 法律や条例に縛られずに行動ができる。
- 市民が、地域の中で自分のできる範囲で活動し、それにプラスして生きがいを見出せるようにする。

○ネットワーク

- ・市内以外で活動している団体ともネットワークを広げ、制度の課題を話し合う。
- ・元々ある実行委員会など（ジャズフェス、ゴスフェスなど）を組み込むことで、コストをかけずに大きなPR効果が期待できる。（ゴミ減量など）
- ・ネットワークを強化し、仲間を増やし、レベルアップを図る。
- ・地域の中にどんどん入って、課題を発掘していく。
- ・仲間内だけの閉ざされた雰囲気にならないようにする。

■双方ができること

○行動力

- ・実現のために積極的に動くことが必要。
- ・向上心を大切にポジティブに取り組む。
- ・協働を楽しいものにしていく努力。

○コミュニケーション

- ・行政とNPOの「立場の違い」が「想いの違い」にならないように距離感を縮める→NPOの想いの強さはわかるが、最初の目的がずれないように付き合いたい。
- ・多少、失敗しながらも前向きに一緒に意見を出しながら進める。
- ・何事もオープンにする。本音で話す。
- ・地域の人材バンクのようなものを作り、強みを生かし合うシステムを構築する。
- ・目的・ゴールを絶えず確認し、意思決定のプロセスをきちんと定める。
- ・多様な視点（女性、マイノリティーなど）を大切にする。
- ・情報の共有。

○立場・役割

- ・相互理解を図る、相手の話をよく聞く（傾聴）、互いの思いを共有するなどにより、お互いのモチベーションを下げないようにする。
- ・応分の負担、それぞれの役割分担を行う。
- ・お互いに得意な部分を活かして伸ばしていくこと。

○ネットワーク

- ・無関心層の取り込みのため、主婦層や若者など様々な人がつながれる場や機会の提供（敷居を下げる仕組みづくり）。
- ・思いをつなぎ、事業を継続させるための後継者育成。（役所も団体も）
- ・社会問題に対応できる柔軟なネットワークづくりをする。
- ・企業を巻き込んで、スキルを提供してもらう。
- ・学校に出向いて、小さいうちから協働の知識を教え込む。

6. まとめ（テーブルトークとアンケートから）

一般職から管理監督職まで幅広い階層の職員に参加していただきました。参加した意見・感想として、「市民協働について、職員間で様々な考え方があることがわかった」「協働しながら同じ目標に向かっていくことは実現すれば素晴らしいが困難も多い現実を感じた」等を挙げていました。

市民協働について普段から感じていることについては、「行政の人間は、いち市民である、ということ強く意識したい」「市民協働がどのようなものまで表すのか、つかみきれない。」等の回答がありました。

【写真】

